

# 秋田県内中小企業景況調査結果

(2024年7～9月期)

秋田県商工会議所連合会

## 〈内容〉

- ・ 全産業の項目別DI値
- ・ 産業別DI値
- ・ 地域別DI値
- ・ 産業別設備投資
- ・ 地域別設備投資
- ・ 経営上の問題点
- ・ 付帯調査
- ・ 総括表

※ 景気判断・DI値とは、「増加」・「好転」・「過剰」したとする企業割合から「減少」・「悪化」・「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。  
(▲:マイナス)

## 〈参考〉県内景況調査に対する各企業のコメント 一覧

## 〈回収状況〉

業種	対象企業数	有効回答企業数
建設業	40	28 (70.0%)
製造業	40	35 (87.5%)
卸売業	40	32 (80.0%)
小売業	40	33 (82.5%)
サービス業	40	32 (80.0%)
合計	200	160 (80.0%)

地域	対象企業数	有効回答企業数
県北	50	44 (88.0%)
県央	75	60 (80.0%)
県南	75	56 (74.7%)

## I. 全産業の項目別DI値

### 1. 業況

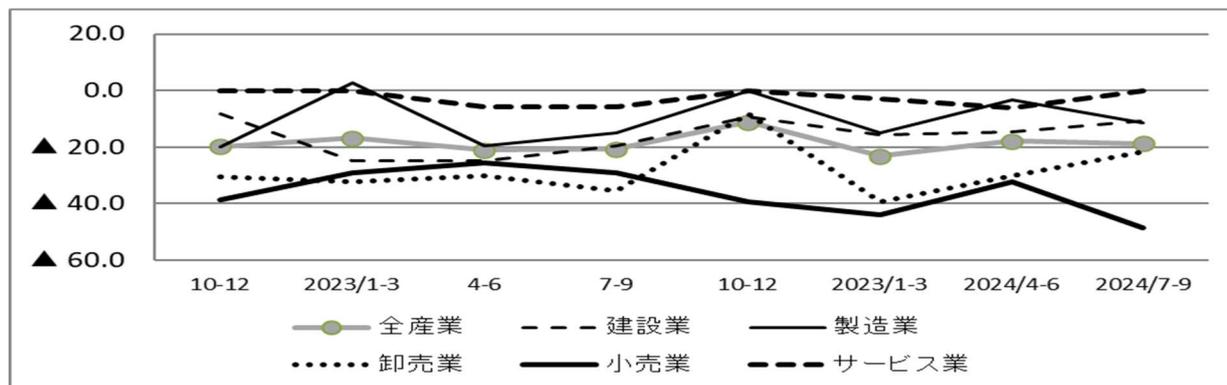
今期（7～9月）の業況DI値は、全産業で▲18.8と前期と比べわずかながら悪化した。

産業別では、小売業が大幅に悪化、製造業も悪化した一方、卸売業、サービス業、建設業は改善した。

来期の見通し（10～12月）は、全産業で▲16.3と今期と比べわずかながら改善を見通している。

産業別では、建設業とサービス業が悪化を見通す一方、小売業と製造業は改善、卸売業は横ばいを見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)	今期(7-9月)		
	(A)	来期見通(7~6月) (B)		(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(10~12月) 今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 17.8	▲ 16.0	▲ 18.8	-1.0	▲ 16.3	2.5
建設業	▲ 14.7	▲ 5.9	▲ 10.7	4.0	▲ 14.3	-3.6
製造業	▲ 3.3	▲ 6.6	▲ 11.4	-8.1	▲ 5.8	5.6
卸売業	▲ 30.3	▲ 18.2	▲ 21.8	8.5	▲ 21.8	0.0
小売業	▲ 32.3	▲ 38.3	▲ 48.5	-16.2	▲ 36.4	12.1
サービス業	▲ 6.3	▲ 9.4	0.0	6.3	▲ 3.1	-3.1



### 2. 売上額・完成工事額

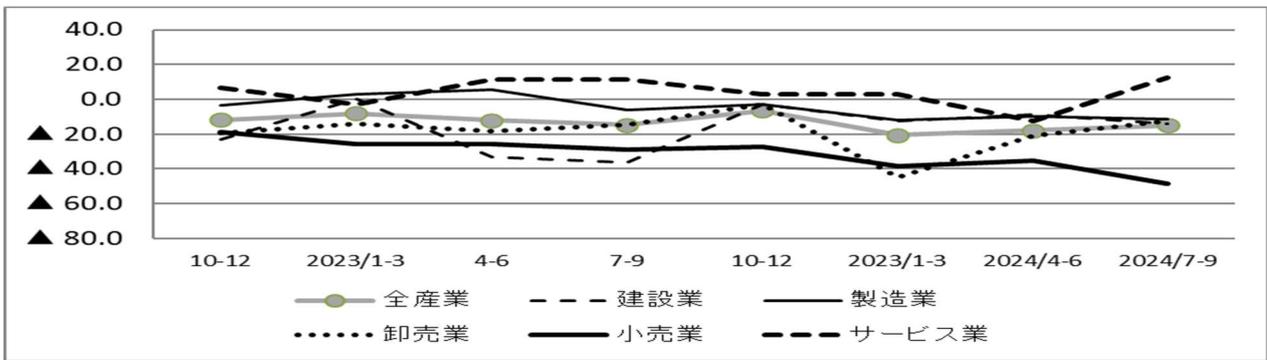
今期（7～9月）の売上額・完成工事額DI値は、全産業で▲15.0と前期と比べわずかながら改善した。

産業別では、小売業と建設業が悪化、製造業もわずかながら悪化した一方、サービス業は大幅に改善、卸売業も改善した。

来期の見通し（10～12月）は、全産業で▲10.7と今期と比べ改善を見通している。

産業別では、サービス業が大幅に悪化、建設業も悪化を見通す一方、小売業は大幅に改善、製造業と卸売業も改善を見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)	今期(7-9月)		
	(A)	来期見通(7~6月) (B)		(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(10~12月) 今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 17.8	▲ 8.0	▲ 15.0	2.8	▲ 10.7	4.3
建設業	▲ 8.9	0.0	▲ 14.3	-5.4	▲ 17.9	-3.6
製造業	▲ 10.0	▲ 6.6	▲ 11.5	-1.5	2.9	14.4
卸売業	▲ 21.2	▲ 3.1	▲ 12.5	8.7	▲ 6.3	6.2
小売業	▲ 35.3	▲ 32.4	▲ 48.5	-13.2	▲ 30.3	18.2
サービス業	▲ 12.5	3.1	12.5	25.0	▲ 3.2	-15.7



### 3. 資金繰り

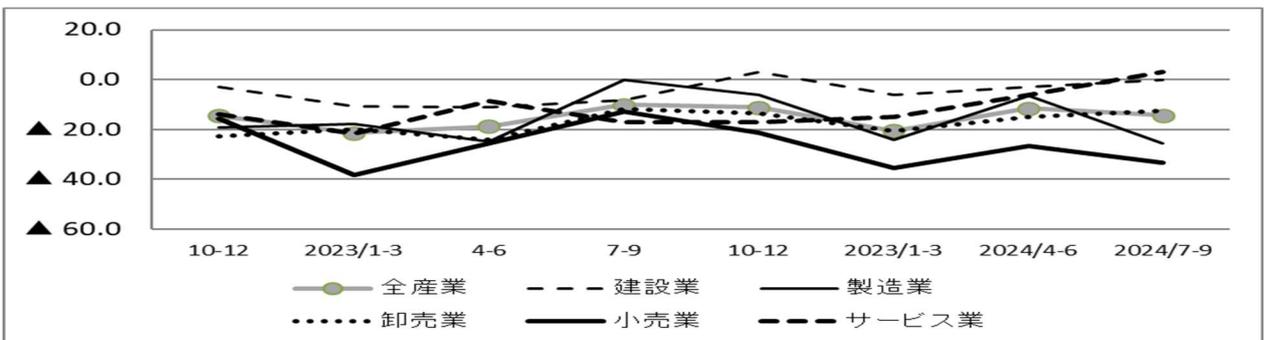
今期（7～9月）の資金繰りDI値は、全産業で▲14.3と前期と比べわずかながら悪化した。

産業別では、製造業が大幅な悪化、小売業も悪化した一方、サービス業は改善、建設業と卸売業はわずかながら改善した。

来期の見通し（10～12月）は、全産業で▲13.1と今期と比べわずかながら改善を見通している。

産業別では、建設業とサービス業は悪化を見通す一方、小売業と卸売業は改善、製造業もわずかながら改善を見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通(7~6月)(B)	(C)	前期比(C)-(A)	来期見通(10~12月)(D)	今期比(D)-(C)
全産業	▲ 11.6	▲ 19.0	▲ 14.3	-2.7	▲ 13.1	1.2
建設業	▲ 2.9	▲ 8.8	0.0	2.9	▲ 3.5	-3.5
製造業	▲ 6.6	▲ 16.7	▲ 25.7	-19.1	▲ 22.8	2.9
卸売業	▲ 15.1	▲ 15.1	▲ 12.5	2.6	▲ 9.4	3.1
小売業	▲ 26.5	▲ 32.4	▲ 33.3	-6.8	▲ 27.3	6.0
サービス業	▲ 6.2	▲ 21.9	3.1	9.3	0.0	-3.1



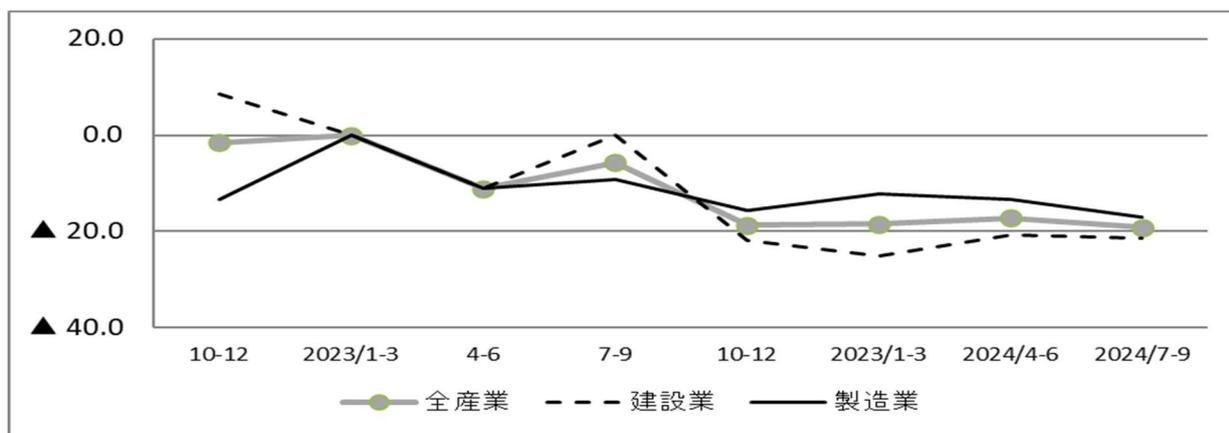
### 4. 受注残（未消化工事高）

今期（7～9月）の受注残DI値は、全産業で▲19.1と前期と比べわずかながら悪化した。産業別では、製造業が悪化、建設業もわずかながら悪化した。

来期の見通し（10～12月）は、全産業で▲16.1と今期と比べわずかながら改善を見通している。

産業別では、建設業は改善、製造業は横ばいを見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通(7~6月)(B)	(C)	前期比(C)-(A)	来期見通(10~12月)(D)	今期比(D)-(C)
全産業	▲ 17.2	▲ 4.7	▲ 19.1	-1.9	▲ 16.1	3.0
建設業	▲ 20.6	5.9	▲ 21.4	-0.8	▲ 14.8	6.6
製造業	▲ 13.3	▲ 16.7	▲ 17.1	-3.8	▲ 17.1	0.0



### 5. 採算（経常利益）

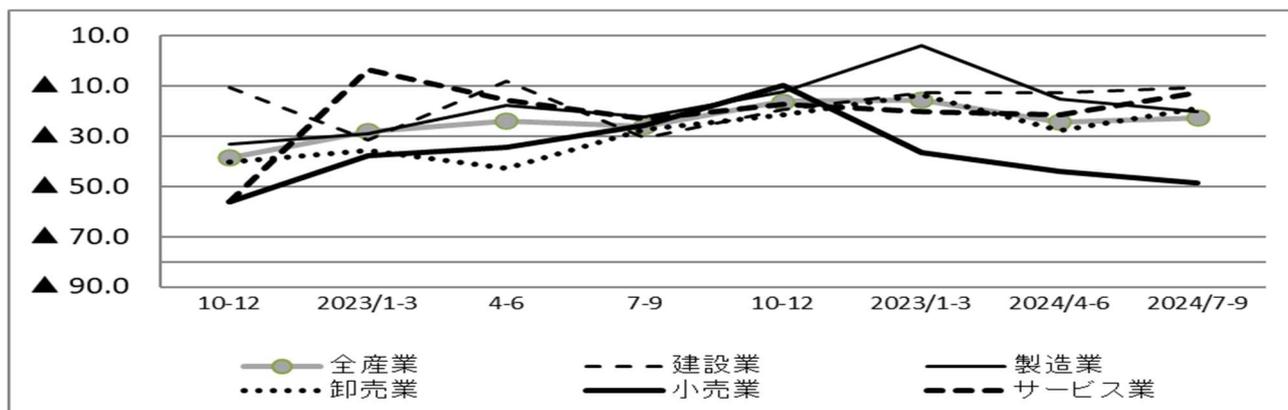
今期（7～9月）の採算DI値は、全産業で▲22.5と前期と比べ悪化した。

産業別では、小売業が大幅に悪化した一方、サービス業は改善、卸売業と建設業もわずかながら改善した。製造業は横ばいであった。

来期の見通し（10～12月）は、全産業で▲19.4と今期と比べ改善を見通している。

産業別では、サービス業が悪化を見通す一方、小売業、卸売業、建設業が改善、製造業もわずかながら改善を見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通 (7-6月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(10-12月) (D)	今期比 (D)-(C)
		(B)				
全産業	▲ 18.4	▲ 18.4	▲ 22.5	-4.1	▲ 19.4	3.1
建設業	▲ 11.7	▲ 2.9	▲ 10.7	1.0	▲ 7.1	3.6
製造業	▲ 20.0	▲ 13.3	▲ 20.0	0.0	▲ 17.2	2.8
卸売業	▲ 21.2	▲ 15.1	▲ 18.8	2.4	▲ 12.5	6.3
小売業	▲ 23.5	▲ 38.3	▲ 48.5	-25.0	▲ 36.4	12.1
サービス業	▲ 15.7	▲ 21.9	▲ 12.5	3.2	▲ 21.8	-9.3



### 6. 従業員（含む臨時）

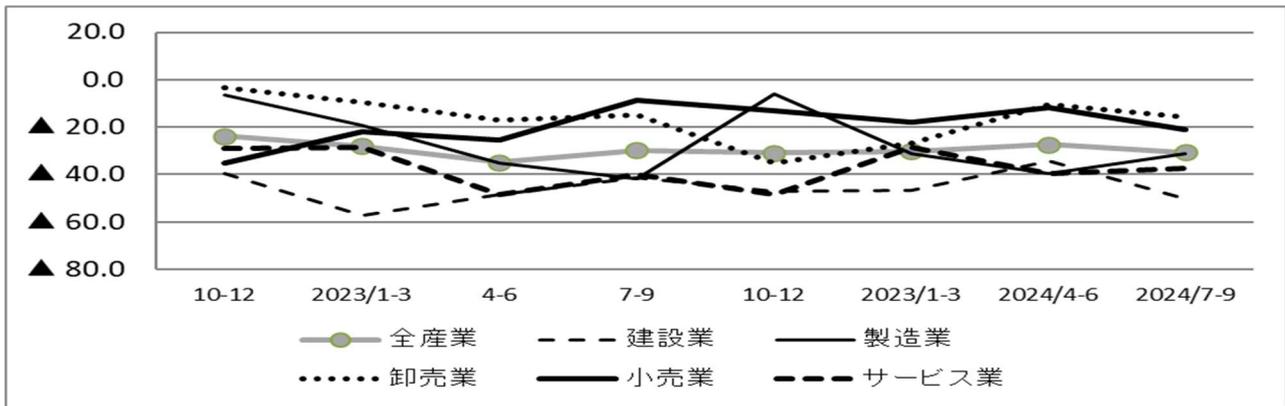
今期（7～9月）の従業員DI値は、全産業で▲30.6と前期と比べ不足感を拡大した。

産業別では、サービス業、建設業、製造業、小売業が不足感を拡大した一方、卸売業は不足感を縮小した。

来期の見通し（10～12月）は、全産業で▲29.4と今期と比べわずかながら不足感の縮小を見通している。

産業別では、卸売業は不足感の拡大、製造業もわずかながら不足感の拡大を見通す一方、小売業、建設業、サービス業は不足感の縮小を見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通 (7~6月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(10~12月) (D)	今期比
		(B)				(D)-(C)
全産業	▲ 27.0	▲ 22.1	▲ 30.6	-3.6	▲ 29.4	1.2
建設業	▲ 41.2	▲ 38.2	▲ 50.0	-8.8	▲ 42.8	7.2
製造業	▲ 23.3	▲ 16.6	▲ 31.4	-8.1	▲ 34.2	-2.8
卸売業	▲ 30.3	▲ 27.3	▲ 15.6	14.7	▲ 25.0	-9.4
小売業	▲ 14.7	▲ 11.7	▲ 21.2	-6.5	▲ 12.2	9.0
サービス業	▲ 25.0	▲ 15.6	▲ 37.5	-12.5	▲ 34.3	3.2



## II. 産業別DI値

### 1. 建設業

今期(7~9月)のDI値は、業況が▲10.7と前期と比べ改善した。

項目別では、完成工事額が悪化、受注残もわずかながら悪化した一方、資金繰りと採算はわずかながら改善した。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「資材・材料高によって厳しい状況である」【土木工事業】とのコメントがあった。

来期の見通し(10~12月)は、業況が▲14.3と今期と比べ悪化を見通している。

項目別では、完成工事額と資金繰りが悪化した一方、受注残と採算は改善した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは「冬場の天候によるが、除雪等関連工事が前年同時期よりある見込み」【土木工事業】とのコメントがあった。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通 (7~6月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(10~12月) (D)	今期比
		(B)				(D)-(C)
業況	▲ 14.7	▲ 5.9	▲ 10.7	4.0	▲ 14.3	-3.6
完成工事額	▲ 8.9	0.0	▲ 14.3	-5.4	▲ 17.9	-3.6
資金繰り	▲ 2.9	▲ 8.8	0.0	2.9	▲ 3.5	-3.5
受注残	▲ 20.6	5.9	▲ 21.4	-0.8	▲ 14.8	6.6
採算(経常利益)	▲ 11.7	▲ 2.9	▲ 10.7	1.0	▲ 7.1	3.6
従業員(含む臨時)	▲ 41.2	▲ 38.2	▲ 50.0	-8.8	▲ 42.8	7.2

## 2. 製造業

今期（7～9月）のDI値は、業況が▲11.4と前期と比べ悪化した。

項目別では、資金繰りは大幅な悪化、受注残が悪化、売上額もわずかながら悪化した一方、採算は横ばいであった。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「お盆に需要のある商品が原料不足及び高値のため、全く奮わなかった」【水産物製造・卸売業】とのコメントがあった。

来期の見通し（10～12月）は、業況が▲5.8と今期と比べ改善を見通している。

項目別では、売上額は改善、資金繰りと採算もわずかながら改善を見通す一方、受注残は横ばいであった。従業員はわずかながら不足感を拡大した。

企業からは、「原材料の値上げが控えており、価格転嫁できるか不安である」【印刷業】とのコメントがあった。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通 (7~6月)	(C)	前期比	来期見通(10~12月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業況	▲ 3.3	▲ 6.6	▲ 11.4	-8.1	▲ 5.8	5.6
売上額	▲ 10.0	▲ 6.6	▲ 11.5	-1.5	2.9	14.4
資金繰り	▲ 6.6	▲ 16.7	▲ 25.7	-19.1	▲ 22.8	2.9
受注残	▲ 13.3	▲ 16.7	▲ 17.1	-3.8	▲ 17.1	0.0
採算(経常利益)	▲ 20.0	▲ 13.3	▲ 20.0	0.0	▲ 17.2	2.8
従業員(含む臨時)	▲ 23.3	▲ 16.6	▲ 31.4	-8.1	▲ 34.2	-2.8

## 3. 卸売業

今期（7～9月）のDI値は、業況が▲21.8と前期と比べ改善した。

項目別では、売上額は改善、資金繰りと採算もわずかながら改善した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「物価高に伴う販売不振に加えて、地域の人口減少から購買力が減少している」【青果・水産物卸】とのコメントがあった。

来期の見通し（10～12月）は、業況が▲21.8と今期と横ばいを見通している。

項目別では、採算、売上額、資金繰りが改善を見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは「人手不足のため、手間をかけた営業ができなくなる恐れがある。仕入れと販売の収支バランスを考慮しないと赤字が拡大する恐れがあるため注意が必要」【青果・水産物卸】とのコメントがあった。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通 (7~6月)	(C)	前期比	来期見通(10~12月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業況	▲ 30.3	▲ 18.2	▲ 21.8	8.5	▲ 21.8	0.0
売上額	▲ 21.2	▲ 3.1	▲ 12.5	8.7	▲ 6.3	6.2
資金繰り	▲ 15.1	▲ 15.1	▲ 12.5	2.6	▲ 9.4	3.1
採算(経常利益)	▲ 21.2	▲ 15.1	▲ 18.8	2.4	▲ 12.5	6.3
従業員(含む臨時)	▲ 30.3	▲ 27.3	▲ 15.6	14.7	▲ 25.0	-9.4

#### 4. 小売業

今期（7～9月）のDI値は、業況が▲48.5と前期と比べ大幅に悪化した。

項目別では、すべての項目で悪化し、特に採算がマイナス25.0ポイントと大幅に悪化した。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「原材料、包材等すべての値上がりで採算は悪化」【菓子製造販売】、「景気低迷による来客数の減少が続いている」【金物小売】とのコメントがあった。

来期の見通し（10～12月）は、業況が▲36.4と今期と比べ改善を見通している。

項目別では、全項目で改善を見通しており、特に売上額が18.2ポイントと大幅な改善を見通している。従業員は不足感の縮小を見通している。

企業からは、「ネット利用など購買方法の変化などがすべてマイナス作用しており、引き続き厳しい状況が続くと思われる」【靴小売業】とのコメントがあった。

	前期(4-6月)		(C)	今期(7-9月)		
	(A)	来期見通 (7~6月)		(C)-(A)	(D)	来期見通(10~12月)
		(B)				今期比 (D)-(C)
業況	▲ 32.3	▲ 38.3	▲ 48.5	-16.2	▲ 36.4	12.1
売上額	▲ 35.3	▲ 32.4	▲ 48.5	-13.2	▲ 30.3	18.2
資金繰り	▲ 26.5	▲ 32.4	▲ 33.3	-6.8	▲ 27.3	6.0
採算(経常利益)	▲ 23.5	▲ 38.3	▲ 48.5	-25.0	▲ 36.4	12.1
従業員(含む臨時)	▲ 14.7	▲ 11.7	▲ 21.2	-6.5	▲ 12.2	9.0

#### 5. サービス業

今期（7～9月）のDI値は、業況が0.0と前期と比べ改善した。

項目別では、売上額は25.0ポイントと大幅な改善、資金繰りと採算も改善した。従業員は不足感を拡大した。

来期の見通し（10～12月）は、業況が▲3.1と今期と比べ悪化を見通している。

項目別では、売上額は大幅な悪化、採算と資金繰りも悪化を見通している。従業員は不足感の縮小を見通している。

企業からは、「来期もブライダル予約が減少しているため、売上額の減少予想。今後、事業の選択と集中に対応する予定」【冠婚葬祭式場】とのコメントがあった。

	前期(4-6月)		(C)	今期(7-9月)		
	(A)	来期見通 (7~6月)		(C)-(A)	(D)	来期見通(10~12月)
		(B)				今期比 (D)-(C)
業況	▲ 6.3	▲ 9.4	0.0	6.3	▲ 3.1	-3.1
売上額	▲ 12.5	3.1	12.5	25.0	▲ 3.2	-15.7
資金繰り	▲ 6.2	▲ 21.9	3.1	9.3	0.0	-3.1
採算(経常利益)	▲ 15.7	▲ 21.9	▲ 12.5	3.2	▲ 21.8	-9.3
従業員(含む臨時)	▲ 25.0	▲ 15.6	▲ 37.5	-12.5	▲ 34.3	3.2

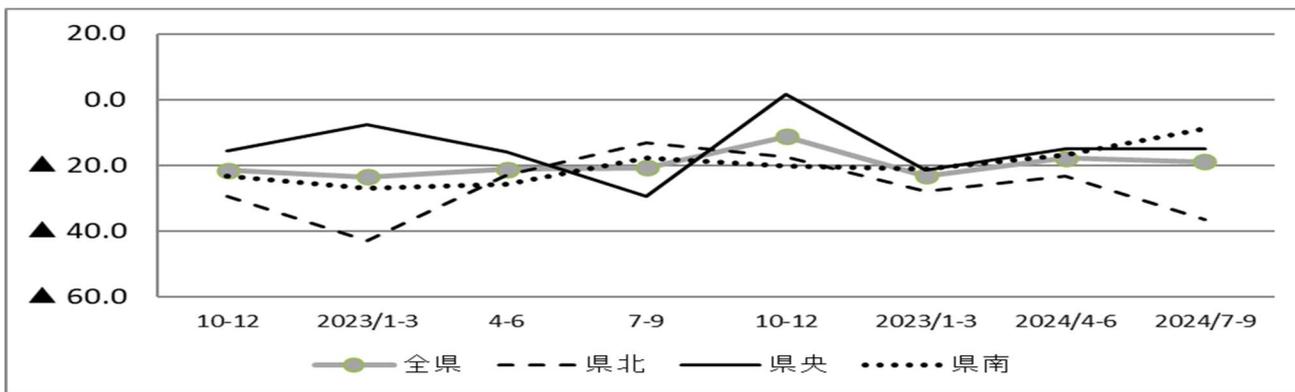
### Ⅲ. 地域別DI値

#### 1. 業況

今期（7～9月）のDI値は、前期と比べ県北が悪化した一方、県南は改善、県央は横ばいであった。

来期の見通し（10～12月）は、今期と比べ県央と県南が悪化を見通す一方、県北は大幅な改善を見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通 (7~6月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(10~12月) (D)	今期比 (D)-(C)
		(B)				
全 県	▲ 17.8	▲ 16.0	▲ 18.8	-1.0	▲ 16.3	2.5
県 北	▲ 23.2	▲ 16.3	▲ 36.4	-13.2	▲ 15.9	20.5
県 央	▲ 15.0	▲ 16.6	▲ 15.0	0.0	▲ 20.0	-5.0
県 南	▲ 16.7	▲ 15.0	▲ 8.9	7.8	▲ 12.5	-3.6

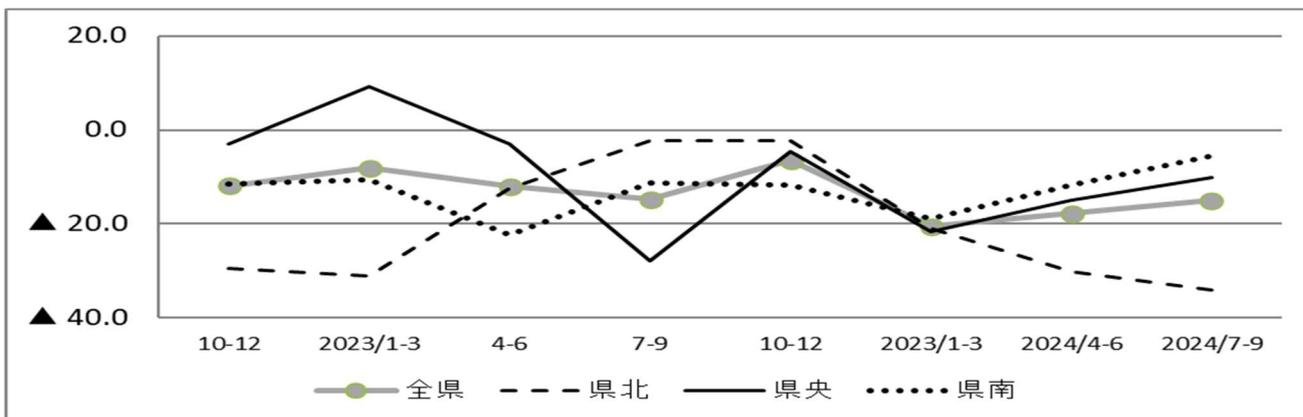


#### 2. 売上額・完成工事額

今期（7～9月）のDI値は、前期と比べ県北が悪化した一方、県南と県央は改善した。

来期の見通し（10～12月）は、今期と比べ県央が悪化を見通す一方、県北が22.8ポイントと大幅な改善、県南は横ばいを見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通 (7~6月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(10~12月) (D)	今期比 (D)-(C)
		(B)				
全 県	▲ 17.8	▲ 8.0	▲ 15.0	2.8	▲ 10.7	4.3
県 北	▲ 30.2	▲ 13.9	▲ 34.1	-3.9	▲ 11.3	22.8
県 央	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 10.0	5.0	▲ 15.0	-5.0
県 南	▲ 11.7	▲ 1.7	▲ 5.4	6.3	▲ 5.4	0.0

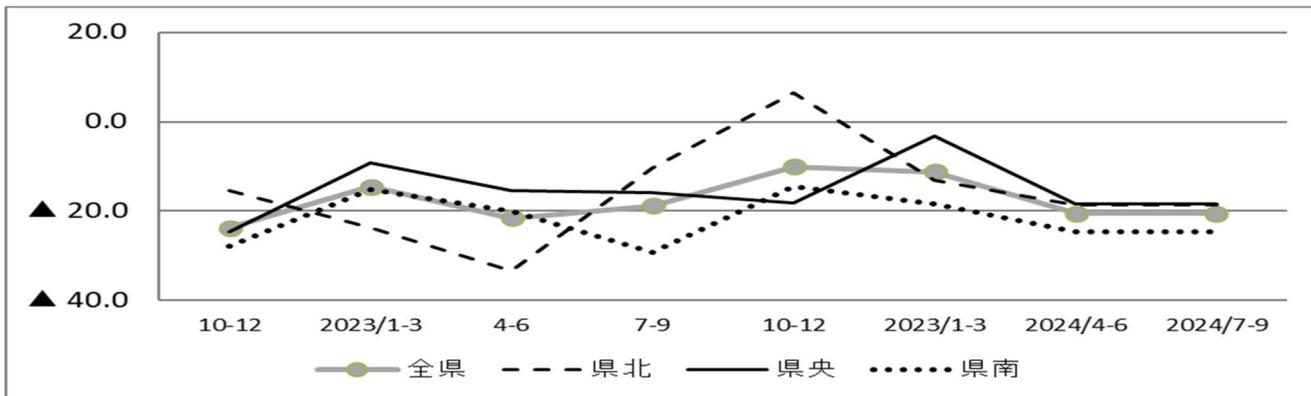


### 3. 資金繰り

今期（7～9月）のDI値は、前期と比べ県北と県央が悪化した一方、県南は改善した。

来期の見通し（10～12月）は、今期と比べ県北は改善、県南もわずかながら改善、県央は横ばいを見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通 (7~6月)	(C)	前期比	来期見通(10~12月)	今期比
		(B)		(C)-(A)		(D)
全 県	▲ 11.6	▲ 19.0	▲ 14.3	-2.7	▲ 13.1	1.2
県 北	▲ 14.0	▲ 27.9	▲ 22.7	-8.7	▲ 18.2	4.5
県 央	▲ 8.3	▲ 16.6	▲ 15.0	-6.7	▲ 15.0	0.0
県 南	▲ 13.4	▲ 15.0	▲ 7.2	6.2	▲ 7.1	0.1

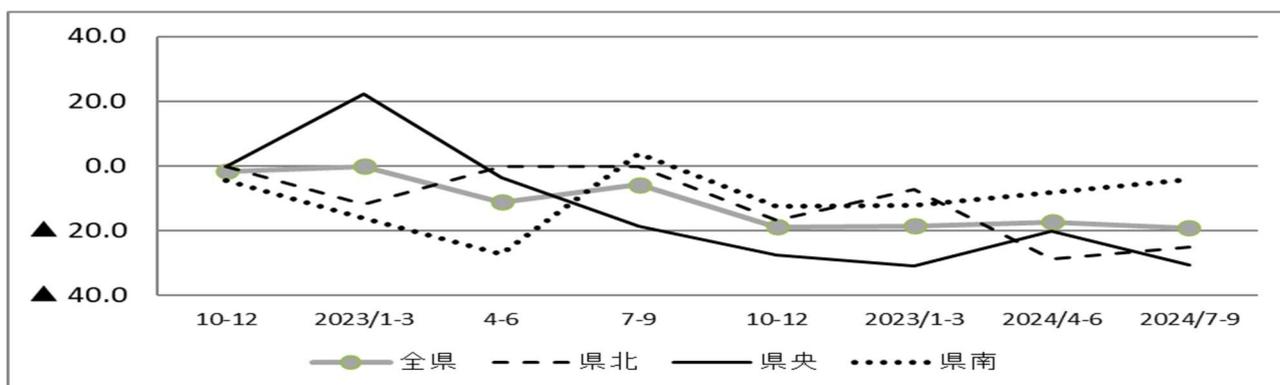


### 4. 受注残（未消化工事高）

今期（7～9月）のDI値は、前期と比べ県央が悪化した一方、県南と県北は改善した。

来期の見通し（10～12月）は、今期と比べ県南が悪化を見通す一方、県北は大幅に改善、県央も改善を見通している。

	前期(4-6月)		今期(7-9月)			
	(A)	来期見通 (7~6月)	(C)	前期比	来期見通(10~12月)	今期比
		(B)		(C)-(A)		(D)
全 県	▲ 17.2	▲ 4.7	▲ 19.1	-1.9	▲ 16.1	3.0
県 北	▲ 28.6	14.3	▲ 25.0	3.6	▲ 6.7	18.3
県 央	▲ 20.0	▲ 12.0	▲ 30.4	-10.4	▲ 21.8	8.6
県 南	▲ 8.0	▲ 8.0	▲ 4.1	3.9	▲ 16.7	-12.6

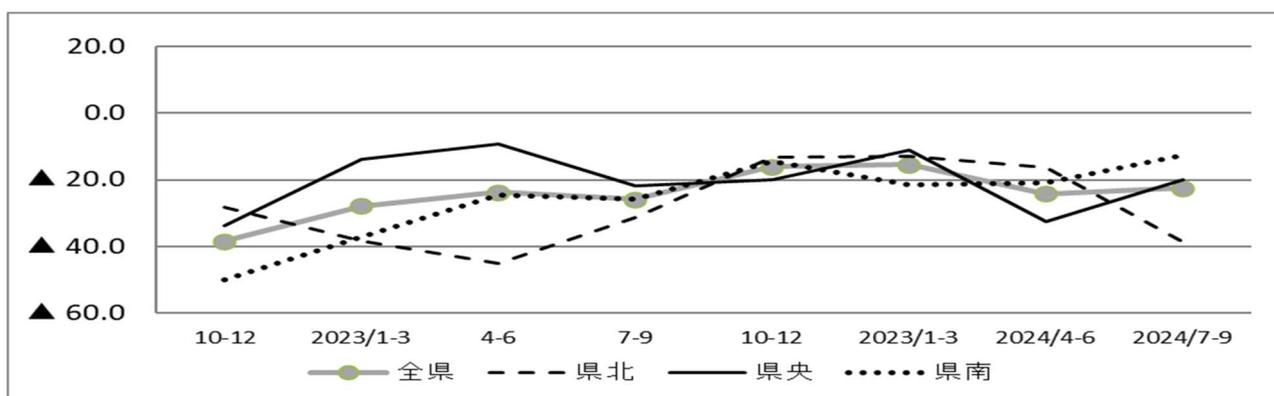


5. 採算（経常利益）

今期（7～9月）のDI値は、前期と比べ県北が大幅に悪化した一方、県南はわずかながら改善、県央は横ばいであった。

来期の見通し（10～12月）は、今期と比べ県南は悪化を見通す一方、県北は大幅な改善、県央は横ばいを見通している。

	前期(4-6月)		(C)	今期(7-9月)		
	(A)	来期見通(7~6月)(B)		前期比(C)-(A)	来期見通(10~12月)(D)	今期比(D)-(C)
全 県	▲ 18.4	▲ 18.4	▲ 22.5	-4.1	▲ 19.4	3.1
県 北	▲ 20.9	▲ 27.9	▲ 38.7	-17.8	▲ 20.5	18.2
県 央	▲ 20.0	▲ 16.7	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	0.0
県 南	▲ 15.0	▲ 13.3	▲ 12.5	2.5	▲ 17.9	-5.4

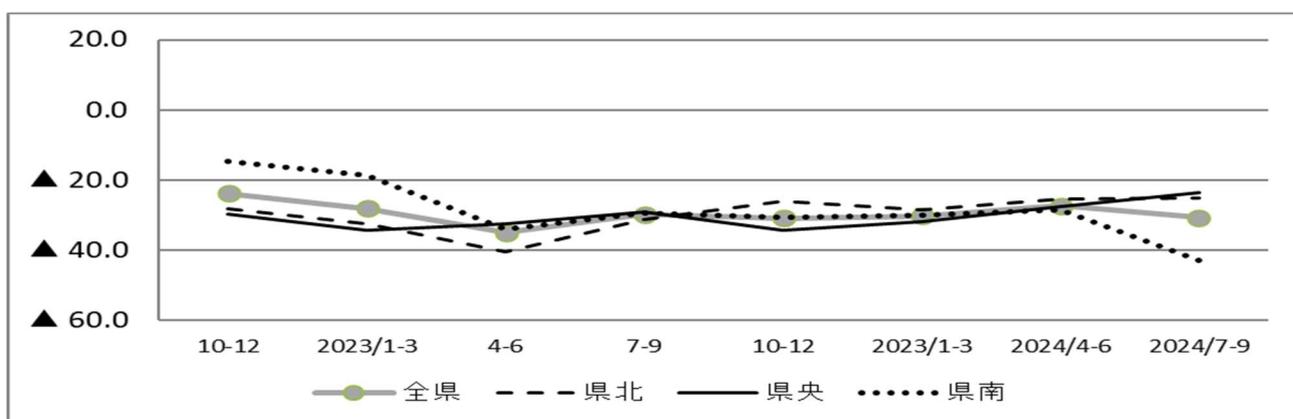


6. 従業員（含む臨時）

今期（7～9月）のDI値は、前期と比べ県南と県北が悪化した一方、県央は改善した。

来期の見通し（10～12月）は、今期と比べ県北と県南はわずかながら改善を見通し、県央は横ばいを見通している。

	前期(4-6月)		(C)	今期(7-9月)		
	(A)	来期見通(7~6月)(B)		前期比(C)-(A)	来期見通(10~12月)(D)	今期比(D)-(C)
全 県	▲ 27.0	▲ 22.1	▲ 30.6	-3.6	▲ 29.4	1.2
県 北	▲ 18.6	▲ 16.3	▲ 25.0	-6.4	▲ 22.8	2.2
県 央	▲ 28.4	▲ 21.6	▲ 23.4	5.0	▲ 23.4	0.0
県 南	▲ 31.7	▲ 26.6	▲ 42.9	-11.2	▲ 41.1	1.8



#### IV. 産業別設備投資

全産業における今期（7～9月）の設備投資については、「実施した」とする企業は、58件と前期と比べ1件増加となった。

産業別では、「実施した」とする中で最も多かったのは、製造業（16件）、次いで建設業（14件）、サービス業（12件）の順となっている。

全産業で、設備投資内容の最も多かったのは、「車両・運搬具」（25件）、次いで「機械・設備・倉庫」（16件）、「建物・工場・店舗」（9件）の順となっている。

来期（10～12月）の計画では、全産業で「計画している」としたのは47件で、今期と比べ11件減少している。

産業別では、「計画している」とした中で最も多かったのは、製造業とサービス業（13件）、次いで建設業（10件）、卸売業（7件）の順となっている。

全産業で、設備投資内容の最も多かったのは「車両・運搬具」（21件）、次いで「OA機器」（13件）、「機械・設備・倉庫」（11件）の順となっている。

#### 設備投資状況

(件数)

	前期(4-6月)				今期(7-9月)					
	実施した (A)	実施しない	来期見通(7~6月)		実施した (C)	実施しない	前期比 (C-A)	来期見通(10~12月)		
			計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
全産業	57	105	51	112	58	102	1	47	112	▲11
建設業	11	23	11	23	14	14	3	10	18	▲4
製造業	15	15	13	17	16	19	1	13	21	▲3
卸売業	9	24	9	24	8	24	▲1	7	25	▲1
小売業	8	26	6	28	8	25	0	4	29	▲4
サービス業	14	17	12	20	12	20	▲2	13	19	1

#### 設備内容(複数回答)

(件数)

	全産業		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期								
①土地	5	1	2	0	0	0	1	0	1	0	1	1
②建物・工場・店舗	9	4	2	1	2	0	1	2	0	0	4	1
③機械・設備・倉庫	16	11	4	0	9	10	0	0	0	0	3	1
④車両・運搬具	25	21	7	7	5	4	5	3	4	2	4	5
⑤付帯施設	6	5	1	0	1	1	2	1	0	1	2	2
⑥OA機器	9	13	5	5	0	0	1	2	1	1	2	5
⑦福利厚生施設	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
⑧その他	2	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0
合計	72	59	21	14	17	16	10	8	8	4	16	17

## V. 地域別設備投資

今期（7～9月）の設備投資について、「実施した」企業は、前期と比べ県北と県南が減少し、県央は増加した。

設備投資で最も多いのは、県北が「機械・設備・倉庫」（5件）、県央が「車両・運搬具」（15件）、県南が「車両・運搬具」（6件）となった。

来期（10～12月）の設備投資について、「計画している」企業は、今期と比べ県北・県央・県南ともに減少を見通している。

「計画している」企業の設備内容で最も多かったのは、県北が「機械・設備・倉庫」（4件）、県央が「車両・運搬具」（11件）、県南も「車両・運搬具」（7件）となっている。

設備投資状況

（件数）

	前期(4-6月)				今期(7-9月)					
	実施した (A)	実施しない	来期見通(7~6月)		実施した (C)	実施しない	前期比 (C-A)	来期見通(10~12月)		
			計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
全 体	57	105	51	112	58	102	1	47	112	▲ 11
県 北	16	26	12	31	14	30	▲ 2	8	35	▲ 6
県 央	22	38	21	39	26	34	4	22	38	▲ 4
県 南	19	41	18	42	18	38	▲ 1	17	39	▲ 1

設備内容（複数回答）

（件数）

	全 県		県 北		県 央		県 南	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
①土地	5	1	0	0	2	0	3	1
②建物・工場・店舗	9	4	2	0	2	1	5	3
③機械・設備・倉庫	16	11	5	4	6	2	5	5
④車両・運搬具	25	21	4	3	15	11	6	7
⑤付帯施設	6	5	1	1	3	3	2	1
⑥OA機器	9	13	2	0	3	7	4	6
⑦福利厚生施設	0	3	0	0	0	2	0	1
⑧その他	2	1	1	1	0	0	1	0
合 計	72	59	15	9	31	26	26	24

## VI. 経営上の問題点

産業別における「経営上の問題点」は、建設業とサービス業が「従業員の確保難」、製造業が「原材料価格の上昇」、卸売業が「仕入単価の上昇」、小売業が「販売単価の低下・上昇難」を第1位に挙げている。

2位以下の項目では、建設業が「熟練技術者の確保難」「材料価格の上昇」、製造業と小売業が「従業員の確保難」、卸売業が「人件費の増加」、小売業が「仕入単価の上昇」、サービス業が「材料等仕入単価の上昇」「利用者ニーズの変化への対応」を問題点として挙げており、熟練技術者不足や人材確保、需要停滞、物価高騰による材料費などの仕入単価上昇の対応等が経営課題となっていることが窺える。

	1位		2位		3位	
建設業	従業員の確保難		熟練技術者の確保難		材料価格の上昇	
	22.2%	6件	33.3%	9件	24.0%	6件
製造業	原材料価格の上昇		原材料価格の上昇		従業員の確保難	
	38.7%	12件	27.3%	9件	20.7%	6件
卸売業	仕入単価の上昇		仕入単価の上昇		人件費の増加	
	48.4%	15件	24.1%	7件	20.0%	5件
小売業	販売単価の低下・上昇難		仕入単価の上昇		従業員の確保難	
	22.6%	7件	25.0%	3件	18.5%	5件
サービス業	従業員の確保難		材料等仕入単価の上昇		利用者ニーズの変化への対応	
	34.5%	10件	26.7%	8件	16.0%	4件

※ %は1位、2位、3位それぞれの回答数(=100%)の割合を示したものの。

参考:1~3位を累計した場合

	1位		2位		3位	
建設業	熟練技術者の確保難		従業員の確保難		材料価格の上昇	
	22.8%	18件	17.7%	14件	13.9%	11件
製造業	原材料価格の上昇		従業員の確保難		人件費の増加	
	26.0%	25件	14.6%	14件	11.5%	11件
卸売業	仕入単価の上昇		従業員の確保難		需要の停滞	
	29.4%	25件	17.6%	15件	11.8%	10件
小売業	仕入単価の上昇		需要の停滞		人件費以外の経費の増加	
	16.7%	15件	13.3%	12件	10.6%	10件
サービス業	材料等仕入単価の上昇		従業員の確保難		人件費の増加	
	20.7%	18件	19.5%	17件	13.8%	12件

※ %は1~3位までの総回答数(=100%)の割合を示したものの。

**【付帯調査】**

**◎価格転嫁、パートナーシップ構築宣言、価格転嫁を後押しする支援策に係る調査**

**VII. 価格転嫁の状況について ※（ ）内は2023年7～9月期調査時の割合**

- ・ 価格転嫁の状況について聞いたところ、回答のあった160社中、③「若干ではあるが価格転嫁できている」が77社48.1% (37.9%)、①「十分に価格転嫁できている」が39社24.4% (27.2%)、②「上昇の5割以上を価格転嫁できている」が28社17.5% (26.6%)の順となった。

選 択 肢	件数	構成比	前回構成比
① 十分に価格転嫁できている	39	24.4%	27.2%
② 上昇の5割以上を価格転嫁できている	28	17.5%	26.6%
③ 若干ではあるが価格転嫁できている	77	48.1%	37.9%
④ まったく価格転嫁できていない	14	8.7%	7.1%
⑤ 価格を転嫁しない。転嫁する必要がない	2	1.3%	1.2%
合 計	160	100.0%	100.0%

**VIII. 価格転嫁できない理由について(複数回答) ※（ ）は2023年7～9月期調査時の割合**

- ・ 問VIIで②～⑤と回答のあった121社に対し、その理由を聞いたところ、②「消費者離れが懸念されるため」が36件29.8% (29.3%)、①「取引先が交渉に応じないため」が35件28.9% (42.3%)、④「自社の交渉力が低く切り出せないため」が23件19.0% (16.3%)の順となった。

選 択 肢	件数	構成比	前回構成比
① 取引先が交渉に応じないため	35	28.9%	42.3%
② 消費者離れが懸念されるため	36	29.8%	29.3%
③ 契約の制限があるため	21	17.4%	20.3%
④ 自社の交渉力が低く切り出せないため	23	19.0%	16.3%
⑤ その他	22	18.2%	13.8%

**○その他のコメント**

**<建設業>**

- ・ 契約と納品に時差があるため（塗装工事業）
- ・ 公共工事のため（土木建築業）

**<製造業>**

- ・ 競合商品の値上げ幅が小さいため（清酒製造業）
- ・ 見積合わせや入札等の関係による（印刷業）
- ・ 材料等について受注後に値上がりがあるため（鉄工業）
- ・ 年間契約のためなかなか価格転嫁しづらい（製麺業）

**<卸売業>**

- ・ 次々値上げするため転嫁が追い付かない（その他の食料・飲料卸売業）
- ・ 相場連動のため（鶏卵卸）
- ・ 先々の契約のため、十分に転嫁できない（建築資材卸売）

### <小売業>

- ・商品の価格設定上の問題である（茶類小売業）
- ・業界のプライスゾーンがあるため（ギフト小売）
- ・他業者とのバランスによるため、価格転嫁しづらい（酒類、食料品）

### <サービス業>

- ・運賃改定は許認可によるため（一般乗用旅客自動車運送業）
- ・運賃のため、運賃改定が必要になる。そのため許可が下りるまで時間がかかってしまい、リアルタイムで転嫁できない（一般乗合旅客自動車運送業）
- ・競合先があるため（ホテル業）

## IX. パートナーシップ構築宣言の認知度について ※（ ）は2023年7～9月期調査時の割合

- ・パートナーシップ構築宣言の認知度について聞いたところ、回答のあった160社中、②「制度名を聞いたことがある」が84社52.5%（48.5%）、③「全く知らなかった」が53社33.1%（36.1%）、②「制度の内容を知っている」が23社14.4%（15.4%）の順となった。

選 択 肢	件数	構成比	前回構成比
① 制度の内容を知っている	23	14.4%	15.4%
② 制度名を聞いたことがある	84	52.5%	48.5%
③ 全く知らなかった	53	33.1%	36.1%
合 計	160	100.0%	100.0%

## X. 下請中小企業の価格交渉、価格転嫁を後押しするために求める支援策について（複数回答）

※（ ）は2023年7～9月期調査時の割合

- ・価格交渉・価格転嫁を後押しするために求める支援策について回答のあった160社に聞いたところ、③「発注側企業の要請強化」が67社39.9%（56.6%）、②「価格交渉のノウハウ提供」が41社24.4%（27.0%）、④「その他」が38社22.6%（4.9%）の順となった。

選 択 肢	件数	構成比	前回構成比
① 相談窓口によるサポート	22	13.1%	34.4%
② 価格交渉のノウハウ提供	41	24.4%	27.0%
③ 発注側企業の要請強化	67	39.9%	56.6%
④ その他（景気回復や国による制度改正等）	38	22.6%	4.9%

## ○その他のコメント

### <製造業>

- ・景気回復が必要であるとする（婦人服製造業）
- ・特に不要である（電気機器製造）

### <卸売業>

- ・求める支援策について、市場の競争にて価格が決まるので、あまり効果があるとは思えない（ネジ・機械工具卸売業）
- ・生産業は価格が相場で決まることが多く、材料価格が高騰しても相場が上昇するわけではないため、価格転嫁できずにいる（鶏卵卸）

### <サービス業>

- ・国による制度改正が必要である（一般乗用旅客自動車運送業）

## XI. 価格交渉・価格転嫁に向けた課題や要望等について（自由記入）

### <建設業>

- ・業界の動向に注意したい（総合工事）

### <製造業>

- ・政府の支援が必要であると思う（電気機器製造）
- ・価格転嫁については、民間工事が特に厳しいが、公共工事について県の価格見直しをスムーズに行ってほしい。そうすることで、施工業者への負担も少なくなり、販売側の交渉ももっと少なくなるのではないかと（コンクリート製造）

### <卸売業>

- ・価格上昇による客離れの不安（野菜卸売業）
- ・値上げはしたいものの、客先との価格競争も激化しており、様々な国や県の支援はあれど、思ったような価格転嫁は難しい（ネジ・機械工具卸売業）
- ・価格転嫁はできているが、消費者は基本値上がりしたら買わなくなるため、景気の向上または消費を活発化させる施策が今後必要になってくるのではないかと思う（青果・水産物卸）

### <小売業>

- ・秋田県の場合は、人口減少が所得減につながっていると思う（時計・眼鏡・光学機械小売業）
- ・まず仕入先からの値上げの要請があり、納得できる理由であればすべて原価の値上げに応じ、そして取引先へその旨伝えて原価の値上げをお願いする。100%分ご理解いただき、価格の転嫁をされている。大体が上がり、末端も上がらなければ間のどこかが大変思いをする。エンドユーザーも一番大変な思いをされていると思う。要因は一業者では何ともしがたい問題（茶類小売業）
- ・小売なので100%価格転嫁をしたら、高いという理由で買わなくなってしまう（菓子製造販売）

### <サービス業>

- ・従業員の年齢が上がり、病気をする人が多くなっているため経営を続けることについて検討中である（普通洗濯業）
- ・官公庁の入札物件（最近は複数年契約）が50%ほど占めているので値上げ交渉が難しい（ビルメンテナンス業）

**秋田県内中小企業景況調査  
全産業別景気判断比較表(DI値)**  
(第2四半期:2024年7月~9月)

	業況						売上額・完成工事額						資金繰り					
	前期(4-6月)			今期(7-9月)			前期(4-6月)			今期(7-9月)			前期(4-6月)			今期(7-9月)		
	来期見通 (7~6月)		(A)	前期比 (C)-(A)		(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)		(A)	来期見通 (7~6月)		(B)	前期比 (C)-(A)		(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)		
	(B)	(C)	(D)	(A)	(B)	(C)	(D)	(A)	(B)	(C)	(D)	(A)	(B)	(C)	(D)	(A)	(B)	(C)
全産業	▲17.8	▲16.0	▲18.8	▲1.0	▲16.3	2.5	▲17.8	▲8.0	▲15.0	2.8	▲10.7	4.3	▲11.6	▲14.3	-2.7	▲13.1	1.2	
建設業	▲14.7	▲5.9	▲10.7	4.0	▲14.3	-3.6	▲8.9	0.0	▲14.3	-5.4	▲17.9	-3.6	▲2.9	0.0	2.9	▲3.5	-3.5	
製造業	▲3.3	▲6.6	▲11.4	-8.1	▲5.8	5.6	▲10.0	▲6.6	▲11.5	-1.5	2.9	14.4	▲6.6	▲25.7	-19.1	▲22.8	2.9	
卸売業	▲30.3	▲18.2	▲21.8	8.5	▲21.8	0.0	▲21.2	▲3.1	▲12.5	8.7	▲6.3	6.2	▲15.1	▲12.5	2.6	▲9.4	3.1	
小売業	▲32.3	▲38.3	▲48.5	-16.2	▲36.4	12.1	▲35.3	▲32.4	▲48.5	-13.2	▲30.3	18.2	▲26.5	▲33.3	-6.8	▲27.3	6.0	
サービス業	▲6.3	▲9.4	0.0	6.3	▲3.1	-3.1	▲12.5	3.1	12.5	25.0	▲3.2	-15.7	▲6.2	3.1	9.3	0.0	-3.1	

(▲マイナス)

	受注残(未消化工事高)						採算(経常利益)						従業員(含む臨時)					
	前期(4-6月)			今期(7-9月)			前期(4-6月)			今期(7-9月)			前期(4-6月)			今期(7-9月)		
	来期見通 (7~6月)		(A)	前期比 (C)-(A)		(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)		(A)	来期見通 (7~6月)		(B)	前期比 (C)-(A)		(D)	来期見通 今期比 (D)-(C)		
	(B)	(C)	(D)	(A)	(B)	(C)	(D)	(A)	(B)	(C)	(D)	(A)	(B)	(C)	(D)	(A)	(B)	(C)
全産業	▲17.2	▲4.7	▲19.1	-1.9	▲16.1	3.0	▲18.4	▲18.4	▲22.5	-4.1	▲19.4	3.1	▲27.0	▲30.6	-3.6	▲29.4	1.2	
建設業	▲20.6	5.9	▲21.4	-0.8	▲14.8	6.6	▲11.7	▲2.9	▲10.7	1.0	▲7.1	3.6	▲41.2	▲50.0	-8.8	▲42.8	7.2	
製造業	▲13.3	▲16.7	▲17.1	-3.8	▲17.1	0.0	▲20.0	▲13.3	▲20.0	0.0	▲17.2	2.8	▲23.3	▲31.4	-8.1	▲34.2	-2.8	
卸売業	-	-	-	-	-	-	▲21.2	▲15.1	▲18.8	2.4	▲12.5	6.3	▲30.3	▲15.6	14.7	▲25.0	-9.4	
小売業	-	-	-	-	-	-	▲23.5	▲38.3	▲48.5	-25.0	▲36.4	12.1	▲14.7	▲21.2	-6.5	▲12.2	9.0	
サービス業	-	-	-	-	-	-	▲15.7	▲21.9	▲12.5	3.2	▲21.8	-9.3	▲25.0	▲37.5	-12.5	▲34.3	3.2	

※ DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。  
:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

# 秋田県内中小企業景況調査結果(業種別比較表)

(第2四半期:2024年7月~9月)

## 1. 今期の状況

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	16	98	46	33	70	57	10	117	33	6	39	18	17	90	53	7	97	56
	%	10.0	61.3	28.8	20.6	43.8	35.6	6.3	73.1	20.6	9.5	61.9	28.6	10.6	56.3	33.1	4.4	60.6	35.0
	DI	▲ 18.8			▲ 15.0			▲ 14.3			▲ 19.1			▲ 22.5			▲ 30.6		
建設業	実数	1	23	4	2	20	6	1	26	1	1	20	7	1	23	4	0	14	14
	%	3.6	82.1	14.3	7.1	71.4	21.4	3.6	92.9	3.6	3.6	71.4	25.0	3.6	82.1	14.3	0.0	50.0	50.0
	DI	▲ 10.7			▲ 14.3			0.0			▲ 21.4			▲ 10.7			▲ 50.0		
製造業	実数	7	17	11	11	9	15	2	22	11	5	19	11	6	16	13	3	18	14
	%	20.0	48.6	31.4	31.4	25.7	42.9	5.7	62.9	31.4	14.3	54.3	31.4	17.1	45.7	37.1	8.6	51.4	40.0
	DI	▲ 11.4			▲ 11.5			▲ 25.7			▲ 17.1			▲ 20.0			▲ 31.4		
卸売業	実数	2	21	9	6	16	10	2	24	6				4	18	10	2	23	7
	%	6.3	65.6	28.1	18.8	50.0	31.3	6.3	75.0	18.8				12.5	56.3	31.3	6.3	71.9	21.9
	DI	▲ 21.8			▲ 12.5			▲ 12.5			▲ 18.8			▲ 15.6			▲ 21.2		
小売業	実数	1	15	17	1	15	17	0	22	11				1	15	17	1	24	8
	%	3.0	45.5	51.5	3.0	45.5	51.5	0.0	66.7	33.3				3.0	45.5	51.5	3.0	72.7	24.2
	DI	▲ 48.5			▲ 48.5			▲ 33.3			▲ 48.5			▲ 21.2			▲ 21.2		
サービス業	実数	5	22	5	13	10	9	5	23	4				5	18	9	1	18	13
	%	15.6	68.8	15.6	40.6	31.3	28.1	15.6	71.9	12.5				15.6	56.3	28.1	3.1	56.3	40.6
	DI	0.0			12.5			3.1			▲ 12.5			▲ 37.5			▲ 37.5		

※ DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

## 秋田県内中小企業景況調査結果（業種別比較表）

（第2四半期：2024年7月～9月）

### 2. 来期の見通し

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	13	108	39	29	85	46	6	127	27	6	40	16	13	103	44	7	99	54
	%	8.1	67.5	24.4	18.1	53.1	28.8	3.8	79.4	16.9	9.7	64.5	25.8	8.1	64.4	27.5	4.4	61.9	33.8
	DI	▲ 16.3			▲ 10.7			▲ 13.1			▲ 16.1			▲ 19.4			▲ 29.4		
建設業	実数	1	22	5	3	17	8	1	25	2	3	17	7	1	24	3	1	14	13
	%	3.6	78.6	17.9	10.7	60.7	28.6	3.6	89.3	7.1	11.1	63.0	25.9	3.6	85.7	10.7	3.6	50.0	46.4
	DI	▲ 14.3			▲ 17.9			▲ 3.5			▲ 14.8			▲ 7.1			▲ 42.8		
製造業	実数	6	21	8	10	16	9	1	25	9	3	23	9	4	21	10	1	21	13
	%	17.1	60.0	22.9	28.6	45.7	25.7	2.9	71.4	25.7	8.6	65.7	25.7	11.4	60.0	28.6	2.9	60.0	37.1
	DI	▲ 5.8			2.9			▲ 22.8			▲ 17.1			▲ 17.2			▲ 34.2		
卸売業	実数	2	21	9	5	20	7	1	27	4	5	18	9	5	18	9	2	20	10
	%	6.3	65.6	28.1	15.6	62.5	21.9	3.1	84.4	12.5	15.6	62.5	21.9	15.6	56.3	28.1	6.3	62.5	31.3
	DI	▲ 21.8			▲ 6.3			▲ 9.4			▲ 12.5			▲ 25.0					
小売業	実数	1	19	13	2	19	12	0	24	9	2	19	13	1	19	13	1	27	5
	%	3.0	57.6	39.4	6.1	57.6	36.4	0.0	72.7	27.3	6.1	57.6	36.4	3.0	57.6	39.4	3.0	81.8	15.2
	DI	▲ 36.4			▲ 30.3			▲ 27.3			▲ 36.4			▲ 12.2					
サービス業	実数	3	25	4	9	13	10	3	26	3	9	13	10	2	21	9	2	17	13
	%	9.4	78.1	12.5	28.1	40.6	31.3	9.4	81.3	9.4	28.1	40.6	31.3	6.3	65.6	28.1	6.3	53.1	40.6
	DI	▲ 3.1			▲ 3.2			0.0			▲ 21.8			▲ 34.3					

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

# 秋田県内中小企業景況調査結果（地域別比較表）

（第2四半期：2024年7月～9月）

## 1. 今期の状況

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全県	実数	16	98	46	33	70	57	10	117	33	6	39	18	17	90	53	7	97	56
	%	10.0	61.3	28.8	20.6	43.8	35.6	6.3	73.1	20.6	9.5	61.9	28.6	10.6	56.3	33.1	4.4	60.6	35.0
	DI	▲ 18.8			▲ 15.0			▲ 14.3			▲ 19.1			▲ 22.5			▲ 30.6		
秋田	実数	8	35	17	14	26	20	5	41	14	2	12	9	7	34	19	5	36	19
	%	13.3	58.3	28.3	23.3	43.3	33.3	8.3	68.3	23.3	8.7	52.2	39.1	11.7	56.7	31.7	8.3	60.0	31.7
	DI	▲ 15.0			▲ 10.0			▲ 15.0			▲ 30.4			▲ 20.0			▲ 23.4		
大館	実数	0	15	8	4	8	11	0	17	6	0	7	2	1	12	10	1	10	12
	%	0.0	65.2	34.8	17.4	34.8	47.8	0.0	73.9	26.1	0.0	77.8	22.2	4.3	52.2	43.5	4.3	43.5	52.2
	DI	▲ 34.8			▲ 30.4			▲ 26.1			▲ 22.2			▲ 39.2			▲ 47.9		
能代	実数	0	13	8	1	11	9	0	17	4	0	5	2	1	11	9	1	19	1
	%	0.0	61.9	38.1	4.8	52.4	42.9	0.0	81.0	19.0	0.0	71.4	28.6	4.8	52.4	42.9	4.8	90.5	4.8
	DI	▲ 38.1			▲ 38.1			▲ 19.0			▲ 28.6			▲ 38.1			0.0		
大曲	実数	3	11	4	5	9	4	1	13	4	2	5	1	4	11	3	0	9	9
	%	16.7	61.1	22.2	27.8	50.0	22.2	5.6	72.2	22.2	25.0	62.5	12.5	22.2	61.1	16.7	0.0	50.0	50.0
	DI	▲ 5.5			5.6			▲ 16.6			12.5			5.5			▲ 50.0		
横手	実数	1	13	7	4	8	9	0	17	4	0	6	4	1	13	7	0	12	9
	%	4.8	61.9	33.3	19.0	38.1	42.9	0.0	81.0	19.0	0.0	60.0	40.0	4.8	61.9	33.3	0.0	57.1	42.9
	DI	▲ 28.5			▲ 23.9			▲ 19.0			▲ 40.0			▲ 28.5			▲ 42.9		
湯沢	実数	4	11	2	5	8	4	4	12	1	2	4	0	3	9	5	0	11	6
	%	23.5	64.7	11.8	29.4	47.1	23.5	23.5	70.6	5.9	33.3	66.7	0.0	17.6	52.9	29.4	0.0	64.7	35.3
	DI	11.7			5.9			17.6			33.3			▲ 11.8			▲ 35.3		

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

## 秋田県内中小企業景況調査結果（地域別比較表）

（第2四半期：2024年7月～9月）

### 2. 来期の見通し

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全県	実数	13	108	39	29	85	46	6	127	27	6	40	16	13	103	44	7	99	54
	%	8.1	67.5	24.4	18.1	53.1	28.8	3.8	79.4	16.9	9.7	64.5	25.8	8.1	64.4	27.5	4.4	61.9	33.8
	DI	▲	16.3		▲	10.7		▲	13.1		▲	16.1			▲	19.4		▲	29.4
秋田	実数	6	36	18	11	29	20	4	43	13	3	12	8	7	34	19	5	36	19
	%	10.0	60.0	30.0	18.3	48.3	33.3	6.7	71.7	21.7	13.0	52.2	34.8	11.7	56.7	31.7	8.3	60.0	31.7
	DI	▲	20.0		▲	15.0		▲	15.0		▲	21.8			▲	20.0		▲	23.4
大館	実数	0	17	6	4	12	7	0	17	6	0	7	1	1	14	8	1	10	12
	%	0.0	73.9	26.1	17.4	52.2	30.4	0.0	73.9	26.1	0.0	87.5	12.5	4.3	60.9	34.8	4.3	43.5	52.2
	DI	▲	26.1		▲	13.0		▲	26.1		▲	12.5			▲	30.5		▲	47.9
能代	実数	1	18	2	1	17	3	0	19	2	0	7	0	1	17	3	1	20	0
	%	4.8	85.7	9.5	4.8	81.0	14.3	0.0	90.5	9.5	0.0	100.0	0.0	4.8	81.0	14.3	4.8	95.2	0.0
	DI	▲	4.7		▲	9.5		▲	9.5		0.0				▲	9.5		4.8	
大曲	実数	2	14	2	4	10	4	1	16	1	1	4	3	3	12	3	0	9	9
	%	11.1	77.8	11.1	22.2	55.6	22.2	5.6	88.9	5.6	12.5	50.0	37.5	16.7	66.7	16.7	0.0	50.0	50.0
	DI	0.0			0.0			0.0			▲	25.0			0.0		▲	50.0	
横手	実数	2	11	8	6	9	6	0	17	4	2	5	3	1	14	6	0	13	8
	%	9.5	52.4	38.1	28.6	42.9	28.6	0.0	81.0	19.0	20.0	50.0	30.0	4.8	66.7	28.6	0.0	61.9	38.1
	DI	▲	28.6		0.0			▲	19.0		▲	10.0			▲	23.8		▲	38.1
湯沢	実数	2	12	3	3	8	6	1	15	1	0	5	1	0	12	5	0	11	6
	%	11.8	70.6	17.6	17.6	47.1	35.3	5.9	88.2	5.9	0.0	83.3	16.7	0.0	70.6	29.4	0.0	64.7	35.3
	DI	▲	5.8		▲	17.7		0.0			▲	16.7			▲	29.4		▲	35.3

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

## 県内景況調査に対する各企業のコメント

### I 今期の特徴（2024年7～9月）

1 県 央	
建設業	春期受注した物件の完成期となり秋季受注に傾注したい【一般土木建築工事業】
建設業	不変傾向ではないが、災害復旧工事等の緊急性の高い工事が増加している【一般土木建築工事業】
建設業	今期は完成工事額がなかった【土木工事業】
建設業	人員の増加に伴い、完成工事額が増加した【一般電気工事業】
製造業	7-9月における家庭用は物価の高騰を背景に買い控えが続いているが、観測史上最多の猛暑日、雨・台風により在宅時間が長く、家庭用商品が好調に。業務用は悪天候に加え、メニュー値上げを嫌ってか人手が鈍く低調。最終的には好調な輸出が実績を牽引し、前年実績+ $\alpha$ を確保できた【清酒製造業】
製造業	お盆に需要のある商品が原料不足及び高値のため、全くふるわなかった【水産物製造・卸売業】
卸売業	天候不良に伴う相場高、数量減、単価増加による売上増【野菜卸売業】
卸売業	例年通りであった【医療用機械器具卸売業】
小売業	販売においてまず、人が減っていることが一番の問題。5年10年ではなく、1年ごとに感じている【時計・眼鏡・光学機械小売業】
小売業	急激に売上げが落ち込んだ。要因はいろいろ考えられるが、有効な対策が見つかっていない状況【靴小売業】
サービス業	毎年夏は良くないが残暑が続くため今年はさらに悪い【茶類小売業】
サービス業	人員不足により、マンパワーが不散され、売上げ減となった【化粧品小売業】
サービス業	一部商品の問題により、量販車種の出荷停止・生産停止が長期化したことの影響から、メーカー出荷台数が大幅に減少し、減収減益となった【自動車小売業】

2 県 北	
製造業	家飲み需要が継続による影響がある【清酒製造業】
卸売業	物価高に伴う販売不振に加えて、地域の人口減少から購買力が減少している【青果・水産物卸】
小売業	原材料、包材等すべての値上がりで採算は悪化【菓子製造販売】
サービス業	売上額は伸びているが、材料費の上昇で利益は増えていない【食堂】

3 県 南	
建設業	資材・材料高によって厳しい状況である【土木工事業】
建設業	それほど変化はなかった【総合建築工事業】
建設業	昨年より受注残は順調であるが、職人不足でお断りする現物が多い【板金工事業】
製造業	売上が回復、価格転嫁を実施した【電気機器製造】
製造業	2023年はアフターコロナもあり、お土産が売れた。2024年は物価高もあり、お土産までまわらない。秋田県南部はインバウンド自体ない【乾麺製造業】
製造業	必要最低限の商品しか買わない傾向が強い【酒製造】
小売業	景気低迷による来客数の減少が続いている【金物小売】
小売業	9月は出張販売の業績がアップしたが、他は全体的に横ばいで推移【酒類、食料品】
サービス業	ビジネスでの連泊者の減少、宴会等の参加人数の減少が見られた。災害での延期や宿泊の取り消しもあった【ホテル業】
サービス業	前期比でブライダルの件数売上の減少が全体売上減少に影響している。社員不足により予約を100%受付できない状況【冠婚葬祭式場】
サービス業	売上は少し伸びているが、利益にはつながらない【ビル管理】

## Ⅱ 来期の見通し（2024年10～12月）

1 県 央	
建設業	受注残に鋭意注意しながら新規受注にこぎつけたい【一般土木建築工事業】
建設業	UV工事等の工期が長期になるものが多いため、受注残が増加する【一般土木建築工事業】
建設業	あくまで体感だが引き合いが減っている気がする【木造建築工事業】
建設業	完成工事額は昨年より少ない予想。一つの工事は延期され、それに伴って経費が重なったので採算は期待できない【土木工事業】
建設業	人手不足による公共工事受注の減少による完成工事額の減少【塗装工事業】
建設業	前年同時期と比較し、完成工事額・採算ともに増加が期待できる【一般電気工事業】
製造業	新商品の投入により売り上げの伸びを期待する一方で、資材価格の高止まりに加え、原料価格の高騰が懸念される【清酒製造業】
製造業	海水面の上昇により、原料となる魚の水揚げが不透明のため、予測がしづらい【水産物製造・卸売業】
卸売業	生産者減少に伴い相場高が継続的に続く予想【野菜卸売業】
小売業	気温の上昇、物価高、ニーズの変化。ネット利用など購買方法の変化などがすべてマイナス作用しており、引き続き厳しい状況が続くと思われる【靴小売業】
小売業	いろいろ新商品や通好みの商品を仕入れてみるが好転は期待されない【茶類小売業】
小売業	一部商品の問題が長期化したことから、商品改良に遅れが発生し、新規受注可能車種が限定的になったことから新規受注台数が減少し、前年同時期の販売台数を下回ることが予測されたため、減収・減益を見込む【自動車小売業】
小売業	今期店舗統合により、スタッフと従業員を集約し採算を見直す【化粧品小売業】
サービス業	今期同様であると思われる【普通洗濯業】
サービス業	売上・採算ともに前年並みを予想【一般乗用旅客自動車運送業】
サービス業	値上げ要請により売上は微増、また新規貨物の受け入れも行う予定。借入れの利率が上がリ、利息増加、設備計画も先送りの予定【港湾運送業】

2 県 北	
製造業	今期同様と見込まれる【清酒製造業】
卸売業	人手不足のため、手間をかけた営業ができなくなる恐れがある。仕入れと販売の収支バランスを考慮しないと赤字が拡大する恐れがあるため注意が必要【青果・水産物卸】
小売業	値上がりしないものがないので採算悪化見込み【菓子製造販売】
サービス業	人手不足が深刻で需要があっても対応できない【食堂】

3 県 南	
建設業	今期同様であると思われる【板金工事業】
建設業	冬場の天候によるが、除雪等関連工事が前年同時期よりある見込み【土木工事業】
製造業	今期に引き続き好調維持の見込み【コンクリート製造】
製造業	大型連休や観光需要があるときに高速道路の割引がないため、観光を抑止していると思う。これからも原材料の値上げが続くと、利益を取りづらくなる【乾麺製造業】
製造業	買い控えの解消と輸出の増加が見込まれる【酒製造】
製造業	原材料の値上げが控えており、価格転嫁できるか不安である【印刷業】
小売業	先が見えず、予想できない【金物小売】
小売業	概ね横ばいの見込みである【酒類、食料品】
サービス業	昨年はビジネスでの連泊者が多かったが、来期は比較的少ないと見込まれる。生鮮食品や米の大幅な値上がり、ソフトドリンク関係の値上がりも予定される【ホテル業】
サービス業	来期もブライダル予約が減少しているため、売上額の減少予想。今後、事業の選択と集中に対応する予定【冠婚葬祭式場】